

授業科目 音声学

【担当教員名】 亀田和夫	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

<概要>

音声、言語の障害に対処しようとするなら、音声と言語がどのように作られ、どのように認識されるかを理解していなければならない。しかし私たちは、例えば「ア」という音声はどのような口の形で出されるか、と問われてもすぐには説明できない。本科目は音声の基本を解き明かしていくことを目的とする。音声については、文科系の言語学の一部としての音声学と、理工系の音響学・情報工学の双方から研究がすすめられ知見が得られてきた。音声と言語の障害に対処するにはこの両方の知識が必要となるので、柔軟な態度で学ぶことが必要である。

<学習目標>

1. 音声学の基礎概念を学ぶ：分節的特徴と韻律的特徴、音素
2. 発声のしくみを学ぶ
3. 母音と子音について学ぶ
4. 音声の分析法について学ぶ
5. 音声の認識と脳について学ぶ

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	音声科学の発展、音声学の基礎概念	1	
2	発声のしくみ	2	
3	母音の性質と分類（1）	3、4	
4	母音の性質と分類（2）	3、4	
5	子音の性質と分類（1）	3、4	
6	子音の性質と分類（2）	3、4	
7	音声の認識と脳	5	

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	日本語音声学入門	斎藤純男	三省堂	2000円
参考書	岩波講座 言語の科学2：音声	白井克彦 他	岩波書店	3800円
その他の資料				

【評価方法】 出席、講義中の応答、レポートの成績、定期試験の成績を総合評価する。	【履修上の留意点】 音声学と音声学演習は随時時間を交換して行う。
---------------------------------------------	-------------------------------------

言語聴覚学科 専門